

ドイツ語発音演習

科目責任者 寺田雄介
学年・学期 1学年・1学期

I. 前文

本学の「ドイツ語」(語学選択)の授業はコミュニケーション能力の向上を主眼に据えているが、一方で「ドイツ語発音演習」(人文自然選択)では、発音ルールを丁寧に学びながら、ドイツ語を「正しく発音する」行為に焦点を当てる。

語学に苦手意識を持つ学生の多くは、発音に自信がないという傾向が見られる。表記文字を単に読むだけでなく、視覚や聴覚を駆使しながら、ドイツ語を全身で感じる必要がある。この授業では、発音の基本的な規則を反復練習によって身につけたのちに、最終的にはドイツ語劇の脚本を用いて、短い劇を演じきることを目標とする。

自分の発音を客観的に聴き直すために、みなさんには定期的にドイツ語テキストを録音し、提出していただく。提出された音声データは担当教員が毎回チェックし、授業時間内に改善すべき点を丁寧にフィードバックする。

「ドイツ語」(語学選択)の理解をより深める目的で履修していただいても構わないし、演劇作品に関心のある学生も歓迎する。一緒にゆっくと、しかし着実にトレーニングを進めよう。

II. 担当教員

寺田雄介(語学・人文教育部門)

III. 一般学習目標

「発音する」行為を通してドイツ語の構造を正確に理解できるようにするのが、この授業の目標である。

IV. 学修の到達目標

1. ドイツ語の発音規則を説明できる。
2. 平易なドイツ語の文章を、意味を考えながら適切に発音することができる。

V. 授業計画及び方法

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者
1	4	15	水	4	全体オリエンテーション	寺田雄介
2		22	水	4	導入, アルファバート, アクセント	
3	5	13	水	4	母音, 複合母音	
4		20	水	4	子音, 複合子音	
5		27	水	4	センテンス中での発音	
6	6	3	水	4	ドイツ語劇を用いた演習①	
7		10	水	4	ドイツ語劇を用いた演習②	
8		17	水	4	ドイツ語劇を用いた演習③	
9		17	水	5	ドイツ語劇を用いた演習④	

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
10	6	24	水	4	ドイツ語劇を用いた演習⑤	寺 田 雄 介
11	7	1	水	4	上映会, 発音規則のまとめ	

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

授業への積極的な参加すなわち平常点（50%）と提出物のクオリティー（50%）を併せて、総合的に評価する。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

教科書：コピーしたものを配布する。

音声教材：LMSに掲載、もしくはCDに焼いて配布する。

VIII. 質問への対応方法

授業中に積極的に質問すること。あるいは研究室（基礎棟3階，ドイツ語教員室，内線2197）まで来ていただいても構わない。メールアドレスは以下の通り。

terada@dokkyomed.ac.jp

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ①提出された音声データをチェックし、改善点をフィードバックする。
- ②録画したドイツ語劇を鑑賞し、ピア評価を行う。

XI. 求められる事前学習、事後学習

シラバス別冊に記載。なお、シラバス別冊に記載が無い場合、要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載。なお、シラバス別冊に記載が無い場合、要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）